

信濃川水系河川整備計画の概要(信濃川下流)

【資料-3】

～北アルプスからの清流を湛え、豊穡な礎をなす悠久なる大河信濃川を守り、活かし、未来に伝える川づくり～

①頻発する水害に対応する河川整備

戦後最大規模の洪水を安全に流下させる

- (1)本支川バランスを図りつつ、内水も考慮し、河道の流下能力を高める。
- (2)流域内の遊水機能の保全や危機管理体制の強化など、超過洪水が発生した場合でも、被害を最小限化する方策について検討する。
- (3)大規模地震により河川管理施設の機能が損なわれないよう、耐震化を進める。



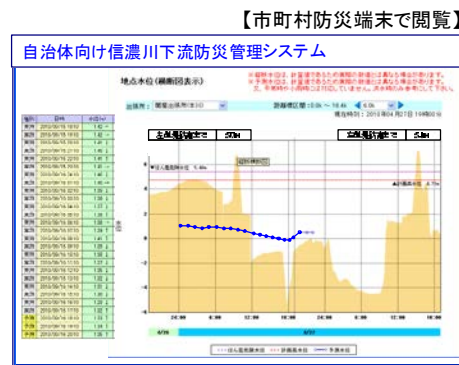
②危機管理体制の強化と地域防災への支援

国、県、市町村が連携した対策の強化

地域と一体となった防災拠点の整備や防災教育の拡充など地域防災力の向上にむけた取り組みを行い、流域全体の治水安全度の向上に努めます。



出前講座等による防災教育の推進

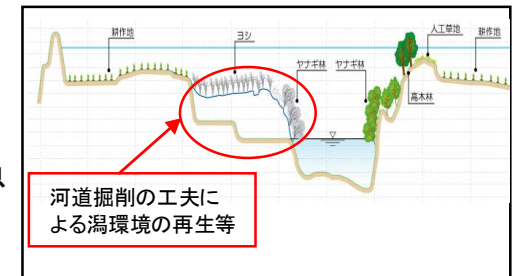


市町村の防災担当者と連携(自治体向け防災管理システム)

③河川整備による自然環境の向上

河道を掘削することで、治水安全度を向上させるとともに、トキなどの生息に必要な**潟環境の再生等多様な河川環境を創出する。**

アユ、サケ等の遡上のための魚道の維持や、重要なワンド等の保全に努める。



河道掘削による環境の再生(河道掘削イメージ)

④人と河川との豊かなふれあいの確保

良好な景観の維持・形成を図るとともに、**地域づくりと一体となった川づくりを推進します。**



やすらぎ堤